

請 願 文 書 表

(平成30年11月28日)

<p>受理番号・受理年月日及び件名</p>	<p>請願第31号 (30. 11. 21) 平成31年度保育・教育予算の増額等を求める請願</p>
<p>請 願 の 要 旨</p>	<p>新制度施行から3年が過ぎ、規制緩和での待機児童解消政策が進んだことで、小規模保育施設は100箇所を超え、自治体が関与しない企業主導型保育施設も30箇所を超えた。同じ保育料を払っていても、庭がない施設や0歳児から2歳児までしか受け入れがないなど施設による格差が拡大している。また保護者は、兄弟で違う施設に通わせることになっても、庭がなくても、我慢せざるを得ない状況である。</p> <p>保育士の処遇問題では、神戸市は独自の政策で確保を図っているが、保育士個人への一時金の支給では、職員の中に格差を生み専門職としての保育士の処遇の引上げにはつながらない。</p> <p>賃金だけでなく、アレルギーや危機管理の対応、0歳児から5歳児までの子供の発達を守る専門職としての処遇改善は緊急の課題である。</p> <p>保育・学童保育の充実のために予算を大幅に増やし、神戸市の責任で、全ての子供が格差のない保育を受けられる保育環境に改善するよう、以下のとおり請願する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 希望する全ての子供が0歳児から5歳児まで入所できる認可保育所で待機児童解消を行うこと。 2. 保育士や学童保育指導者の賃金や配置基準を改善し、処遇改善すること。 3. 保育料や保護者への別途徴収金などの負担を軽減すること。 4. 全ての子供たちがより良い教育・保育を受けるため、公定価格に上乘せしている神戸市の単独補助を増額すること。 5. 公立保育所、公立幼稚園の整備計画を立て、老朽化した施設を建て替え、地域子育て支援に活用すること。 6. 3歳児を始めとして、希望する全ての子供たちが行政の責任で公的保育を受けられるようにすること。
<p>請 願 者 の 住 所 及 び 氏 名</p>	<p>神戸市中央区 神戸市保育運動連絡会 会長 朝 倉 ユ ミ その他署名者あり(申告数8,882名)</p>
<p>紹 介 議 員 の 氏 名</p>	<p>(代表) 大かわら 鈴子 あわはら 富夫 浦 上 忠 文</p>
<p>付 託 委 員 会</p>	<p>文教こども委員会</p>